

INFORMATION

ジェットタオルの開発秘話が新聞で紹介されました。

6月14日(月)～18日(金)の5日間、産経新聞夕刊(関西)「開発秘話 ～私たちの挑戦～」欄においてジェットタオルの紹介記事が連載されました。その誌面を今回と次号(8月9日配信)の2回に分けて掲載します。

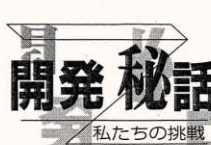
■三菱電機 ジェットタオル①



ジェットタオルの歴代機と辰谷俊郎。『現在の普及ぶりをみる隔世の感がある』という

「風の中心」――三菱電機中津川製作所(岐阜県中津川市)が、いつから社内では「呼び名」だしたかは、つまりからではない。

終戦後、軍需工場から民生に転換。まず手がけたのが扇風機。換気扇だった。以来、風を空気にかかわる商品開発で成長を遂げる。その歴史を生んだ呼び名が、清流・中津川沿いの製作所の立地。風のイメージはいつたりくる。その中津川製作所で平成五年に生まれ、「中津川」に生まれ、「中津川」を



「開発秘話 私たちの挑戦」

環境とコスト、両面に利点

「秒速六十センチの風を手の表面から吹きかけ、水滴を吹き飛ばすジェットタオルは、今、新築オフィスビルに設置されているのが常識になりつつある。導入は各方面に広がり、関西は昨年、スパーの年代が、各店のバックヤードに、累計四百四十台を設置した。

背負ったた製品に育った(中村俊夫所長)のが、ジェット風式ハンドドライヤー「ジェットタオル」だ。

秒速六十センチの風を手の表面から吹きかけ、水滴を吹き飛ばすジェットタオルは、今、新築オフィスビルに設置されているのが常識になりつつある。導入は各方面に広がり、関西は昨年、スパーの年代が、各店のバックヤードに、累計四百四十台を設置した。

「開発秘話 私たちの挑戦」



ジェットタオルの原理モデル(右)と両面ジェット風が水滴を吹き飛ばす様子(下)

■三菱電機 ジェットタオル②



「開発秘話 私たちの挑戦」

危機感が新発想を生んだ

「手を洗った表面の水が動いていました。風で水を吹き飛ばして乾かせない、やないか、これは面白くない。エアブロー、各種乾燥機。応用できるような商品を検討した。市場性、表現可能性の観点から、最終的に残ったのがジェットタオルだった。

ところが、ジェット風を片側から当てただけでは、水滴を手の手から指先まで移動させることができて、その後、手のひら側に回ってしまい、乾かなかった。指先の水滴をきれいに吹き飛ばすには……。

この時、ジェット風を手の甲、手のひらの両側から同時に当てる新発想、両面ジェット風が生まれる。まず、組のパイプで、ターだけの「原理モデル」ができ、そして、それを斜め下向きに挿入する、ジェットタオルの基本デザインが徐々に固まってきた。しかし、その過程で、吹き飛ばした水の処理が技術陣を悩ませた。『敬称略』

イベント情報

「病院・福祉施設住環境フェア2004」に出展します。皆様のご来場をお待ち申し上げております。

- 会期：2004年7月14日(水)～16日(金) 10:00～17:00
- 会場：東京ビッグサイト(東京国際展示場) 西展示棟(西1ホール内)
- URL：http://www.noma.or.jp/hwl/index.html

医療資源の有効活用と介護基盤の整備促進の観点から、療養環境の一層の改善と患者アメニティのさらなる充実が優先課題としてクローズアップされています。患者および入居者が快適に過ごせる住空間の提案を目的とする同フェアのテーマは「やさしさとやすらぎの空間をデザインする」。三菱電機株中津川製作所からはジェットタオル、スモークダッシュ、パワー脱臭形口スナイを出展します。ご来場の際はぜひ三菱電機ブースにお立ち寄りください。